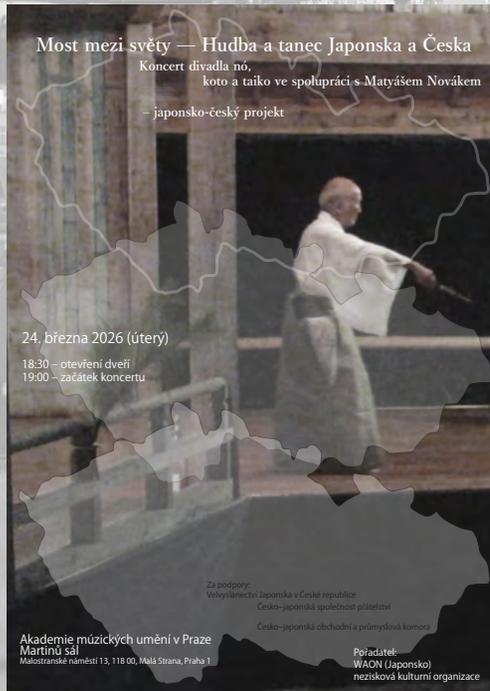


本公演について

日本の伝統芸能「能」を軸に、箏・和太鼓の響き、そしてチェコではピアニスト、マティアス・ノヴァク、ポーランドではチェリスト、アンナ・フェンダーが加わる特別公演。

異なる文化と協働するとき、日本の伝統文化の足腰の強さ、そして多様なものを受けとめ、調和へと導く「和」の思想のユニークさが、いっそう鮮明に花開きます。

公演前半では、能および邦楽の古典的レパートリーを紹介。後半では、日本と中欧の演奏家のコラボレーション新作を上演いたします。



津村
禮次郎



永島
充



坂真
太郎



坂本
雅幸



山本
雅楽邦



渋谷
牧人

「世界を結ぶ橋 — 日本とチェコ・ポーランドの音と舞」 クラウドファンディングご案内

クラウドファンディングリンク

能・箏・和太鼓・ピアノ・チェロによる新作を、チェコ・ポーランドで世界初演
2026年春、日本の伝統芸能が、チェコとポーランドの音楽家と出会い、
新作舞台作品を4都市で初演します。

会場は、会場はすべて、通常の観光では立ち入ることのできない文化拠点

- ・プラハ芸術アカデミー (HAMU) マルティヌーホール (チェコ/プラハ)
- ・クシアン城 (ポーランド/ヴァウブジフ)
- ・ヴロツワフ シティホール (ポーランド/ヴロツワフ)
- ・日本美術技術博物館「Manggha」(ポーランド/クラクフ)

日本文化フェスティバル〈SAKURA 祭り〉、日本大使館、
ワルシャワ大学との連携企画も含まれています。

本プロジェクトはすでに現地と合意のもと動き出していますが、あと100万円の資金があれば、
出演者が安全に移動し、最良の環境で舞台に集中できる体制を整えることができます。

この特別な現場を、ぜひ皆さまと共有したい。

その思いから、クラウドファンディングを立ち上げました。

各 SNS や最新情報はこちらから

HP : jwaon.com

Contact : office-waon@jwaon.com

